

第4次上尾市地域福祉計画及び第7次上尾市地域福祉活動計画 策定のためのアンケート調査・素集計結果の主なポイント

1. 市民 ・地域への関心の低下　・治安についての懸念が上昇

■回答者の属性

- 高年齢ほど回答者の割合が高く、80歳以上が最多。前は70歳代が最多。(問2)

■地域福祉に関する意識や行動

- 自治会加入率が低下。(問5)
- 「地域福祉」「市社会福祉協議会」の認知度は前回調査からやや低下。(問9、33)
- 親しい近所付き合いを望む人が減少。(問12)
- 地域課題の上位は前回調査と同様。「犯罪の増加」を挙げた人は上昇。(問15)
- 地域や地域活動への関心が低下。(問16、21、25)

■ふだんの生活に関すること

- 交通手段は自動車、徒歩、自転車を中心。市内循環バスの利用は伸長。(問27)
- 福祉サービス情報の入手は市の広報紙が中心。但し割合は低下。(問31)

■市や市社会福祉協議会の取り組み

- 重要度、満足度それぞれのポイントが高い取り組みは前回調査と同様。(問35)
- 市社協への期待は「相談窓口の充実」が最多。「福祉サービス」関係が上昇。(問34)
- 地域の組織や団体に期待する取り組みは、緊急事態への対応と防災・防犯活動が最多。特に防災・防犯は前回調査からの伸びが大。(問41)

2. 福祉関係事業者 ・他の組織との連携が進展　・人材育成への支援ニーズが急増

- 組織形態は、社会福祉法人が38.7%、医療法人と株式会社とともに22.6%。前回調査と比較し、社会福祉法人が増加、株式会社が減少。(問2)
- 情報発信の手段は「ホームページ」が8割超で、前回(71.7%)よりも増加。(問3)
- 他の団体や組織と連携しているのは93.5%で、前回(84.9%)よりも増加。連携が進んでいるのは「小学校・中学校・高校」。教育・保育施設は、今後情報交換や連携を強めたい団体・組織としても前回調査から増加。(問5、5-1)
- 地域福祉活動推進のために必要とする支援は、「資金面での支援」、「人材育成面での支援」、「他団体・組織との交流などの連携」が上位。特に「人材育成」は前回調査から20ポイント以上増加。(問9)

3. 福祉関係団体 ・団体の困りごととはメンバーに関すること

- 交流や連携のある他の団体・機関は、「社会福祉協議会」、「自治会・町内会・区会」、「市役所」、「民生委員・児童委員」が上位。特に「自治会・町内会・区会」は前回よりも増加。（問 2）
- 活動を行う上で困っていることは、メンバーに関すること（「メンバーの高齢化」、「新しいメンバーが入らない」、「リーダー（後継者）が育たない」）が上位で、いずれも前回調査よりも増加している。（問 3）
- 団体活動をする上で、市役所・社会福祉協議会に望むことは、「活動に必要な情報提供」、「経済的支援」、「リーダーの養成支援」、「団体の活動についての PR」が上位。項目は前回と同様。（問 10）
- 感じる地域課題は前回調査と同様。「犯罪の増加」の回答割合は 4 倍増。（問 11）
- 安心の暮らしを続けるために必要なことは、「身近な相談窓口の整備」、「情報入手体制の整備」、「支援が必要な人への支援」が上位。前回多かった「交流できる場の整備」、「災害時における体制整備」は 10 ポイント以上減少。（問 13）

4. 民生委員・児童委員・主任児童委員 ・活動の負担感が上昇 ・なり手不足を懸念

- 経験年数は「3 年～5 年」が 28.8%で最多。「3 年未満」の若手が減少。（問 3）
- 活動について「やや」も含めた『やりがいがあると思う』は前回調査と同程度だが、「やや、やりがいがあると思う」が増加。（問 4）
活動を「あまり負担に感じない」は前回よりも減少、「やや負担に感じる」が増加。（問 5）
- 活動の中で困難と感じることは、「なり手が不足している」が最多で、前回よりも 10 ポイント増加。（問 6）
- 感じる地域課題は、「隣近所との交流が少ない」、「世代間の交流が少ない」、「地域から孤立している人がいる」が上位。前回「交流」に続いて多かった災害関係の課題は減少。「犯罪の増加」の回答割合は倍増。（問 9）
- 安心の暮らしを続けるために必要なことは、「支援が必要な人への支援」、「地域の人と交流できる場の整備」、「身近な相談窓口の整備」、「情報入手体制の整備」、「バスなどの公共交通手段の整備」が上位。公共交通手段の整備は前回から 10 ポイント増加。「災害時における体制整備」は 10 ポイント以上減少。（問 11）